

ご存じでしたか？

眼への曝露は、なんと **66.8%** !

※職業感染制御研究会『エビネットサーベイランスによる皮膚・粘膜曝露の疫学』2013年「曝露した部位」の調査より、2011-2012年の調査結果

●決して珍しくない、眼からの感染



患者さんの咳やくしゃみの飛沫が、眼に入るケースも…

皮膚粘膜の曝露報告のうち、なんと約7割が眼への曝露であり、又、約8割が病棟で発生した曝露という調査結果があります。さらに、2004年5月30日付の日本経済新聞によれば、妊娠中の女性医師が眼からの曝露によってC型肝炎に感染したという事例もあり、眼への曝露が引き起こす感染は、決して珍しいことではありません。

**眼鏡やコンタクトレンズでは、
眼を曝露から守ることは
できません。**



眼を曝露から守るためには、専用の防護具が必要です。



**体液の飛散しやすい処置時には、
必ず顔面防護具を着用してください。**